目次

1 論説文の読解① 前学年までのおさらい …… 4
2 物語の読解① 前学年までのおさらい …… 10
3 随筆の読解① 前学年までのおさらい …… 16
4 詩の鑑賞① 前学年までのおさらい …… 22
5 論説文の読解② 文のつながりをつかむ（かなづかい・送りがな） …… 28
6 論説文の読解③ 文のつながりをつかむ（漢字の画数） …… 34
7 物語の読解② 展開をつかむ（漢字の筆順） …… 40
8 短歌・俳句の鑑賞① 短歌・俳句の表現をつかむ（漢字の成り立ち） …… 46
9 短歌・俳句の鑑賞② 短歌・俳句の表現をつかむ（漢字の部首） …… 52
10 論説文の読解④ 段落構成をつかむ（音読みと訓読み①） …… 58
11 論説文の読解⑤ 段落構成をつかむ（音読みと訓読み②） …… 64
12 詩の鑑賞② 詩の表現をつかむ（同音異義語・同訓異義語） …… 70
13 詩の鑑賞③ 詩の表現をつかむ（熟語の組み立て） …… 76
14 物語の読解③ 場面をつかむ（三字熟語） …… 82
15 物語の読解④ 場面をつかむ（四字熟語） …… 88
16 随筆の読解② 文章の話題をつかむ（類義語・対義語） …… 94
17 随筆の読解③ 文章の話題をつかむ（主語・述語） …… 100
18 物語の読解⑤ 人物の心情や性格をつかむ（修飾語） …… 106
19 物語の読解⑥ 人物の心情や性格をつかむ（文の種類） …… 112
20 物語の読解⑦ 人物の心情や性格をつかむ（慣用句） …… 118

SAMPLE

21 論説文の読解⑥ 要点をつかむ（ことわざ）……124
22 論説文の読解⑦ 要点をつかむ（故事成語）……130
23 随筆の読解④ 事実と意見を読み分ける（文学史）……136
24 随筆の読解⑤ 事実と意見を読み分ける（敬語・手紙の書き方）……142
25 短歌・俳句の鑑賞③ 短歌・俳句の内容をつかむ（体言）……148
26 短歌・俳句の鑑賞④ 短歌・俳句の内容をつかむ（用言）……154
27 論説文の読解⑧ 筆者の主張をつかむ（体言・用言以外の自立語）……160
28 論説文の読解⑨ 筆者の主張をつかむ（ことばの種類・働き）……166
29 物語の読解⑧ 文章の主題をつかむ（語句の知識の総合演習①）……172
30 物語の読解⑨ 文章の主題をつかむ（語句の知識の総合演習②）……178
31 入試対策演習① 総合問題……184
32 入試対策演習② 総合問題……192
33 入試対策演習③ 総合問題……198
34 入試対策演習④ 総合問題……204
35 入試対策演習⑤ 総合問題……210
36 入試対策演習⑥ 総合問題……218
37 入試対策演習⑦ 総合問題……224
38 入試対策演習⑧ 総合問題……230
39 入試対策演習⑨ 総合問題……238
40 入試対策演習⑩ 総合問題……244

SAMPLE

21 論説文の読解⑥ ― 要点をつかむ ―

ことわざ

学習日 ／

解法の解説

◇要点をつかむ◇

説明文・論説文では、文章を通して筆者が何を伝えようとしているのかをつかまなくてはなりません。まず、それぞれの段落の中心文を手がかりに、各段落で筆者が最も述べたいことをとらえましょう。段落の中心文は、その段落の始まりに書かれることもあれば、段落の終わりに書かれる場合もあります。細かな説明を受けて、筆者が大づかみにまとめている一文を探しましょう。

● **事実を具体的に整理する。**

説明文・論説文は、事実が元になって書かれています。どのような事実を中心に話が展開しているかをつかみましょう。

文章の中では、一つのもの（事実）をいろいろな角度からとらえている場合や、あることがらについて、いくつかの具体例を挙げている場合などがあります。いずれの場合も、箇条書きや、図表などにしてみると、書かれていることを正確に理解する上での助けになります。

● **接続語・指示語に着目する。**

文章を筋道立てて考えるために、文と文とのつながりや、段落と段落とのつながりを考えます。内容のつながりをとらえる上では、接続語の働きに着目することや、指示語の指示内容をとらえることが重要な手がかりになります。

確認問題

❶ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

SAMPLE

〈三井秀樹「琳派のデザイン学」より〉

（注）形象＝姿やかたち、イメージなどのこと。
萌葱色＝芽が出たばかりのねぎのような黄緑色。
浅葱色＝緑がかったうすいあい色。
海松色＝茶色っぽい暗い黄緑色。

幾何学的＝図形が整っている様子。
床柱＝和室の床の間に使われる柱。
欄間＝天井と鴨居（かもい）（部屋のしきりの上にわたす横木）とのあいだの開口部のこと。
静物＝絵の題材で、花や果物、器などの動かないもののこと。

□(1) この文章の見出しとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 日本の自然の特徴　イ 日本の文化の歴史
ウ 日本の美術の原点　エ 日本の自然の豊かさ

□(2) 本文中の［※］に入る最もふさわしいことばを次から選び、記号で答えなさい。

ア ところが　イ つまり
ウ さらに　エ たとえば

□(3) ――線❶「ここ」とは、どのようなところですか。次の文の［　］に入る最もふさわしいことばを、本文中のことばを用いて二十字以内（読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

〈日本の絵画は主に［　］ところ。〉

□(4) ――線❷「西洋の伝統的色彩より当然のことながらはるかに色数も豊富なのです」とありますが、日本の色彩が豊富だったのは

SAMPLE

なぜですか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア　日本には西洋よりも色彩の豊かな自然があったから。
イ　日本人は色のちがいを見分ける能力にたけていたから。
ウ　日本人は自然界のさまざまな色を模してきたから。
エ　日本人は色にこだわる特有の文化をもっていたから。

□(5)　――線❸「形についてはどうでしょうか」とありますが、この問いに対する答えを次のようにまとめた場合、□に入る最もふさわしいことばを、本文中から十四字でさがし、その最初と最後の五字を書きぬいて答えなさい。

〈形についても、自然界に存在するような□を好んで採り入れてきた。〉

□(6)　――線❹「人物の引き立て役」とは、どういうことですか。そのことをよりくわしく述べた部分を、本文中から十六字でさがし、その最初と最後の五字を書きぬいて答えなさい。

□(7)　本文に述べられている筆者の考えとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　人工的な美を好んできた西洋人とちがい、日本人は自然界のあざやかな原色や規則的な形に美を見出してきた。
イ　自然を征服する対象と見ていた西洋人に対して、日本人は自然に身を置き、一体になることに美を見出してきた。
ウ　西洋人は人物にしか美を見出さなかったが、日本人は自然を愛で、自然の美しさを表現することのみに心をくだいた。
エ　日本人は西洋から学んだ表現技術を活用しながらも、西洋とは異なり、人物を絵画の題材とすることはなかった。

□(8)　本文を「起・承・転・結」の四つのまとまりに分けるとすると、どのように分けることができますか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア　1／2 3 4／5 6／7 8／9
イ　1 2／3 4 5 6／7 8／9
ウ　1 2／3 4／5 6／7 8 9
エ　1 2 3 4／5 6／7 8／9

短文作成トレーニング

本文（「琳派のデザイン学」）の中に登場した次のことばを用いて、短文を作りましょう。

□「一線を画す」

SAMPLE

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈水尾比呂志「日本の美術」より〉

（注）彩色画＝さまざまな色を使って描いた絵。
充溢＝みちあふれること。
山水＝山や川などの自然の風景。

SAMPLE

□(1) 本文中の［※］に入ることばとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア むろん　イ ところで
ウ そこで　エ むしろ

［　　］

□(2) ――線❶「面を描く」とは、どういうことですか。次の文の［　　］に入る最もふさわしいことばを、本文中から十三字で探し、その最初と最後の五字を書きぬいて答えなさい。

〈ものの形を、［　　］などによって描いていくこと。〉

［　　］～［　　］

□(3) ――線❷「水墨画は、丹念に写実的に対象を描写するには適していません」とありますが、なぜですか。次の文の［　　］に入る最もふさわしいことばを、本文中から九字で書きぬいて答えなさい。

〈水墨画には、［　　］という特質があるから。〉

［　　］

□(4) ――線❸「水墨画の目的」とは、どのようなことですか。本文中のことばを用いて、二十五字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

［　　］

□(5) 本文に述べられている筆者の考えとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ほんとうにすぐれた水墨画は、対象を丹念に観察して構図を練ったうえで慎重に描きあげられるものである。
イ 水墨画には画家自身の精神が写し出されるので、すぐれた水墨画を描くにはすぐれた人格をはぐくむ必要がある。
ウ 観る人の胸を打つような水墨画を描くには、特別な技術は必要ではなく、描く人の精神の豊かさがあればよい。
エ すぐれた水墨画は、けっして直観にたよることなく、対象の内面をじっくりと見つめて描いていくものである。

［　　］

□(6) 次の一文は、もともと本文中のある段落の最後にあったものです。その段落として最もふさわしいものを選び、算用数字で答えなさい。

〈構図も形も、筆を下ろす瞬間（しゅんかん）に決定されるのです。〉

［　　］段落

□(7) 本文を大きく三つのまとまりに分けるとすると、どのように分けることができますか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア 1／2 3 4／5 6 7 8
イ 1 2／3 4 5／6 7 8
ウ 1 2 3／4 5 6／7 8
エ 1 2 3／4 5 6 7／8

［　　］

SAMPLE

ことばの学習

ポイント

《ことわざ》

ことわざは、生活上の教えやいましめを、たくみに言い表していることばです。たくさんのことわざを覚え、身に付けることは、語彙を増やすばかりでなく、生きていく上での知恵を身に付けることにもつながります。

問題

次のそれぞれのことわざが（　）の意味になるように、□に入るふさわしいことば（動物名）を書いて答えなさい。

□(1)「泣き面に□」
（困っているうえに、さらに困ったことが重なること）

□(2)「□の面に水」
（どんなことをされても平気でいること）

□(3)「とらぬ□の皮算用」
（手に入るかわからないものを当てに計画を立てること）

□(4)「角を矯めて□を殺す」
（小さな欠点を直そうとして、それ自体をだめにすること）

□(5)「□の行水」
（入浴時間が短いこと）

□(6)「□百までおどり忘れず」
（幼時に身についた習慣は年をとっても身からはなれないこと）

□(7)□に見こまれた□」
（苦手なものの前に出て、身がすくんで手も足も出ないこと）

□(8)「□の目□の目」
（しつこくものを探し出そうとするときのするどい目つき）

□(9)「前門の□、後門の□」
（一つの災いをのがれても別の災いにあうこと）

□(10)「□が□を生む」
（ごくふつうの親がすぐれた能力を持つ子を生むこと）

□(11)「□の子は□」
（子供の能力は、結局親と似ているということ）

□(12)「□の威を借る□」
（自分には力がないのに、強い者の力を借りていばる者）

SAMPLE